

『すべての家族の父』 ローマ人への手紙 8章14～17節 2017.6.18(父の日感謝礼拝説教より)

『こういうわけで、私はひざをかがめて、天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。』
エペソ 3:14～15

「父の日」も「母の日」も、親への感謝、神への感謝が全世界に広まったもの。『あなたの父と母を敬え。…そうしたら、あなたはしあわせになり…(エペソ 6:1～2)』。

①父なる神(ローマ 8:14～15)…「父」と呼べる神こそ、全ての家族の原点である。「私はひざをかがめて、天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります(エペソ 3:14-15)」。「父(パテール)」から「家族(パウルア)」が生まれるというのが聖書の考え方！「天上と地上の家族」とは、「神の家族(教会)」と「この世の家族」のこと。すべての家族は、父なる神によって選ばれ、結ばれ、愛されている！家族が互いの愛に躓く時、父なる神を信じ、委ね、祈る時、どんな欠けも満たされ、どんな困難も乗り越えることができる！◆旧約聖書の父なる神は、とても厳しく感じる！確かに神は聖く、義しく、悪を憎み、罪を徹底的に裁く！しかし新約聖書で、『父のふところにおられるひとり子の神(御子)ヨハネ 1:18』が知らせた父なる神は、愛と慰めに満ち、罪人の回心を忍耐して待ち、人の悩みを心配されるお方！実は、旧約時代も新約時代も、神の戒めは唯一『互いに愛し合いなさい』！それは戒めというより「願い」であり、命令というより「祈り」(互いにずっと愛し合えるように)である！主を信じた者は、神を「アバ父」と呼ぶ(ローマ 8:15)。「アッバ」とは家族用語！「とうちゃん／パパ／おやじ」。★この父なる神を知り、その愛と守りと慰めを知れば、恐れは平安に変えられる！

②神の子どもとなる(Iヨハネ3:1)…この神の子の恵みにあずかるには、罪赦され、世の汚れから聖められる必要がある。私の罪の身代わりに十字架で死なれた御子は、3日目にその罪と死を打ち破って甦られた！『この方(イエス様)を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権が与えられた(ヨハネ1:12)』。神の子となるには、①私は、罪を犯して生きたくしました！②この私の罪のためにイエス様が十字架で死なれたことを信じます！③今、イエス様を救い主として心に迎えます！この告白により、誰もが神の子の祝福にあずかれる。いつでも、どこでも、遠慮なく父なる神様を呼び、力と恵みにあずかれる！その神の子には、永遠の命の祝福・慰め・安息が用意されている(8:17)。

★天地の創り主を『父なる神』として信じる私たちを通して、神の家族も地上の家族も豊かに祝福され、『互いに愛し合う』家族が、ひとりも失われず、無事に天のお父様の家に帰れますように！